

# 課題名：血液バイオマーカーを中心としたMCI期アルツハイマー病の病態層別化と自然歴の解明

代表機関/代表者：国立長寿医療研究センター/春日 健作  
研究期間：令和8年度～令和12年度

## 研究開発目的

アルツハイマー病では、認知症の手前である 軽度認知障害（MCI）の段階から使える新しい薬（抗Aβ抗体薬）が登場していますが、治療の効き方や進行の速さには個人差があるとされています。本研究では、MCIの人の病気のタイプや進み方をより正確に見分け、将来の個別化医療につながる基盤を構築することを目的とします。

## 取り組み

MCIの人を多施設で継続的に追跡し、血液バイオマーカー検査（脳の状態を反映するたんぱく質を採血で測定）や画像検査を組み合わせることで脳の状態を分類します。抗Aβ抗体薬を使用している人から地域で暮らす人まで、多様な参加者のデータを集め、病気の進み方を見極める仕組みを整える取り組みです。

## 成果目標

MCI期アルツハイマー病の進み方を血液検査で見分ける技術と、大規模な追跡データ基盤を確立し、早期診断や治療選択の精度向上、個別化医療の実現につながる仕組みを社会に提供します。

認知機能が同程度のMCIであっても、合併症やその後の進行速度には個人差がある

